

## 学 平成25年度福智町高齢者大学開講式 学ぶ意欲がセカンドライフを鮮やかに

楽しみながら知識や教養を身に付け、喜びと生きがいのある人生を過ごすことを目的とした「福智町高齢者大学」の開講式が、例年より3週早い5月22日に地域交流センターで開催されました。本年度は12月までの約半年間、町内に住む50歳以上の220人が週1回の講座を受講。一般教養や14の専門講座のほか、運動や日帰りバス研修などもある充実した内容です。



↑ 開講式に参加した173人は、これから始まる学生生活に目を輝かせていました。

↓ 金田中の全校男子による「棒体操」。息の合った動きで会場を魅了していました。



## 心 町内3中学校で体育会 心に刻まれた思い出の1ページ

5月19日に予定されていた町内3中学校（金田中223人、方城中192人、赤池中242人）の体育会が雨で延期になり、3日後の22日に挙行されました。平日開催で残念ながら保護者の応援は少なかったものの、生徒たちは積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮。各校とも大いな盛り上がりを見せた体育会は、中学校生活の最高の思い出として心に深く刻まれたようでした。

## 国 バンダイナムコから伊方・弁城小に感謝状贈呈 国内最先端教材の有効活用が評価され

児童の「学ぶ力」を伸ばすため、平成22年度から町内5小学校に導入されている電子黒板用学習コンテンツ「あたまの給食タマキユウ」。その開発元であるバンダイナムコから、活用が盛んな伊方小と弁城小へ感謝状が届きました。同システムの導入に携わった山本貢さんは、「PTAの協力あってこそその評価。町の教育への姿勢が認められうれしい」と目を細めていました。



↑ システム導入に尽力した山本さんが代表し、両校長へ感謝状が手渡されました。

↓ 今なお地元の人たちに愛されている伝統行事。甘茶をかけ無病息災を願います。



## 甘 興国寺の花まつり 甘茶の香りに包まれた興国寺

仏教の開祖であるお釈迦様が生まれたとされる5月8日に、興国寺（上野）で毎年恒例の「花まつり」が行われました。お釈迦様の誕生を祝福するこの催しは、その昔、地元の小学校が休みになったほどの祭事。境内には色とりどりの花で飾られた御堂が設置され、幅広い年代の人が無病息災を願って、生まれたばかりの釈迦を模した像に柄杓で甘茶をかけていました。

↓ 上野焼の趣深い風合いや手に取った時の感触を確かめ、自分にあった春の新作を品定めする陶芸ファン。



## 新 第40回上野焼春の陶器まつり 新緑の上野路に陶器ファン集う

上野焼の「春の陶器まつり」が4月26日から4日間、ふれあい交流館と上野焼協同組合に加盟する13の窯元で開かれました。お買い得の割引商品の販売や餅つきなどのふれあい交流イベントが行われ、恒例となった陶器が当たる空くじなしのスタンプラリーも大好評。40周年を迎えた今年は、初の試みとして6窯元の庭に期間限定のモデル庭園が設置され、まつりに彩りを加えました。県外からの来訪者や期間内に運行した無料バスの利用者も多く、4日間で約7500人が新緑の香る春の上野路を満喫していました。

## 地 包括連携協定調印式 地域再生目指し“官”と“学”が手を結ぶ

田川地区8市町村と福岡県立大学との「包括連携協定」の調印式が5月2日に田川市で行われました。この協定は、各自治体が抱える問題について、大学と市町村が持つ互いの人材や情報を活用して研究し、その成果を地元還元するという取り組み。今後は高齢者を寝たきりにさせない支援策や児童虐待防止策、不登校といった社会的な問題の解決策などを探る予定です。



↑ 今後の連携を記念して固く握手した、8市町村代表と柴田洋三郎学長（写真中央）

↓ 道真公ゆかりの梅紋を胸に、夕日が差す厳かな雰囲気の中で舞う稚児と獅子。



## 南 南木菅原神社神幸祭 南木地区の伝統と誇りをつなぐ舞

菅原道真ゆかりの南木菅原神社の神幸祭が5月2日から2日間行われ、厳かな雰囲気の中で舞う稚児と華やかな衣装をまとった4歳から12歳までの稚児が、豊作を願って伝統の舞いを奉納しました。この祭は、明治20年代に当時の青年たちが筑前（飯塚市庄内町）の綱分（つなわき）で習い覚えたのが始まり。戦時中も絶えることなく、今日まで受け継がれている南木地区の伝統行事です。